# 令和7年度第１回 海岸工学委員会幹事会　議事録

開催日時：2025年9月19日（金）14:00-17:00
開催場所：主婦会館プラザエフ（対面）および Web（Zoom）によるハイブリッド会議
出席者（敬称略）：
【オンサイト】
渡部委員長，田島副委員長，原田幹事長，木原，下園，髙川、内山

【web】
楳田，遠藤，大井，川崎，鴫原，柴田，澁谷，保坂，宮武，山城，山中，門廻
議事録：門廻，原田

**■議事前報告（原田委員）**
環境賞選考委員会委員が，信岡委員から荒木委員へ変更された
論文賞選考委員会委員が，田島委員から川崎委員へ変更された
関東地区委員兼幹事が，田島委員から下園委員へ変更された

**■前回議事録（WEB公開済）が確認された.**

**■第72回海岸工学講演会論文審査（山城委員，中村委員）**
**■海岸工学論文投稿査読新システム検討特命WG（山城委員）**

- 投稿概要について報告された.
- 271編投稿され，C)懸念ありと評価された事例について説明された.
- JSTAGE論文の投稿概要が報告された（175編，採択率96%）.
- EMでの投稿に伴い発生した諸課題（標題の前に論文番号がない，等）が共有された.
- 主査が副査に査読依頼する期間を事前に設ける必要あり
- 審査結果A～Dをメールに記載してほしい（投稿者側からのコメント）
- 最初の査読ではB判定なのに，修正原稿でD判定の審議があった．D判定の可能性がある場合は，最初の判定でC判定にしておくなど，工夫が必要.
- 大幅に遅れた論文2編であった（①就職した元学生が責任著者，②最終原稿提出を2度依頼）
- 次年度に向けた課題が共有された．著者関連で，主査コメントに対応するように通知する．主査関連で，査読依頼を自動受諾としたため，確認できているか不明．その他で，査読結果を査読者全員に通知した方がよい（昨年も指摘あり）.
- 11月初旬にJ-STAGE公開予定である.
- 投稿者からの異議申し立てに対応する仕組みについて（編集調整会議，参考として共有）
- 特命WGとして，今年度マニュアル作成，主査向け説明会を開催した
- 著者負担金と論文集DVD価格について報告された

● 査読結果を査読者全員に通知した方が良いのか？
　→　どこで確認できるかを事前に説明するのでいいのではないか
　→　確認してほしい方に確認していただく工夫が必要ではないか

→　CEJでは，査読結果を査読者全員に周知している．副査は10編程度なので，メールでもOKではないか．EM上の設定で，査読者へのメール通知の設定ができる
→　EMの機能を使用して，労力をかけずに，査読者全員に通知する方向で決定

- 主査の判断で，2回目の返却をA判定に対して行ってもいいか.
  →　今年度，A判定に対してフォーマット修正で，2回目の返却事例がった
  →　最終原稿を提出後，最終原稿の提出期限までに余裕があった場合，主査の判断で，返却してもいいのか，が論点
  →　主査の判断で，このような方針で進めていただく.
- EMメール記載の日時のバグについて
  →　改善の方向で，アトラスへ報告していく.
- 査読者へのコメントが，全体のコメント，スペシフィックコメントのような順序にできないか？
  →　EM検討WGで対応を検討する.
- 海岸工学論文賞および奨励賞の選考について検討結果が報告され，承認された
- 論文賞には推薦するが，奨励賞には推薦しないことはありか？
  →　採点表には，勘違いが発生しないように，採点表に注釈を付与している．匿名審査員が勘違いされているように思えない．次年度以降，依頼内容について確認する.
- ◯の数と点数，どちらに評価の重みをつけるのか.
  →　本日の議論により現状の評価方法の改善が確認されたため，今後検討する.

**※　幹事会終了後　集計結果に間違いがあることが発覚したため，改めて、幹事会で本件について審議し、承認を得た内容：「選考結果と採点集計結果との間に発覚した齟齬を解消し論文評価点と矛盾しない候補論文を選出するため，僅差であった次点候補論文を繰り上げ2025年度に限り4編を受賞候補とする」こととし委員会に附議することとした.**

**■第72回海岸工学講演会の準備状況（山中委員）**

- 2025/11/25～11/28の期間でサンポート高松において開催する.
- 11/27に開催予定の懇親会会場が離れているため，学会会場から往復バス3台での移動を予定している．来賓あり，費用は7000円程度と試算.
- 11/25に開催予定の現地見学会，高松港，備讃瀬戸を見学予定．使用予定の地方整備局所有の船舶がメンテナンスの場合，傭船費が別途生じる可能性あり.
- 11/25に開催予定の前日シンポジウム，現地見学会の後，ハイブリッド開催する．会場は，第1小ホール.
- 第3会場は，BBスクエアに変更された.
- 会場内での飲食について，会場指定のお弁当屋のみ可能である．今後弁当予約の段取りを実施する.
- 企業展示は，第1会場前のエントランスロビーで開催予定.
- 開催費用として，248万円程度を見込んでいる.
- 補助金について，高松観光コンベンションセンターへ申請を予定している．ただし，「参加者累計100泊以上，補助金対象のホテル指定あり」

の条件あり．メーリングリストでの共有について，了承された．

- 会場運営アルバイトは，特にマイク係の人手が足りない．徳島文理大に依頼を予定している．発表等で参加する学生にアルバイトを依頼する場合，使用する研究費の規約を踏まえ依頼承認いただく注意が必要．
- 情報発信を目的に，海岸工学講演会のHPを先週更新した．メーリングリスト（CECOM）を通じて，共有済である．CPD申請中のため，現状のポスターには，認定に関する記述なし．承認後，記述を加筆し再度アップロードする．
- 前日シンポジウムについて，登壇者がオンラインで発表することは可能か
  → Zoom / Zoom ウェビナーを使用予定．オンライン発表で可能

**■第73回海岸工学講演会の準備状況（山城委員）**

- 2026/11/10～11/13に大分で開催予定である
- 会場を視察した結果，学会では未使用の大ホールで別の催事があった場合，第1会場（小ホール）周辺で多少の混雑が生じる可能性がある．
- 見学会について，大分港は民間企業の敷地もあり，許可など調整が必要である．現状では，船で別大道路のフレア型護岸と大分港の新しい岸壁の見学を検討中である．年度内にはプランが固まる．
- 懇親会について，3候補で検討中だが，トキハ会館が有力である．
- 懸念点として，会場の鍵が午前9時にならないと借りれない点がある．例年よりもプログラム開始時間を全体的に遅らせる調整が必要．

**■第60回水工学に関する夏期研修会(Ｂコース)開催報告（山城委員）**

- 関係者に対する謝意，概要，参加者（計199名，現地98，オンデマンド１01），収支状況が述べられた．
- 今年度は，新たな試みとして交流会を実施した．プログラム上は，1日目および2日目の昼・夜の計4回実施した．
- 現地参加者へのアンケート結果が報告された．参加者の属性は，民間企業の割合が高かった．居住地区では，関東在住が38名と九州30名より多かった．
- 今後取り上げてほしいテーマ（Bコース）として，気候変動絡みが多い．その他，実務で使えるような技術，AIやブルーインフラなどの要望が確認された．

**■第61回水工学に関する夏期研修会(Ｂコース)準備状況（楳田委員）**

- 開催日程として，2026/8/27（木）-8/28（金）を予定している．
- 会場として，金沢大学の講義室を利用する予定である．
- テーマとして「頻発・激甚化する流域・沿岸災害に関する調査・解析と防災を考える」を設定した．2023年以降2コース共通でテーマ設定されていることから，今回も共通テーマを設定した．令和6年能登半島地震なども踏まえ防災系に決定した．
- 開催形式として，参加費等は，第60回を踏襲する．
- 検討中（依頼前）の講師候補案が示され，今後検討することが報告さ

れた．

- Aコースの話題提供者（案）の二瓶先生は，第59回で登壇いただいた．コメントです．

**■Coastal Engineering Journal について（内山委員）**

- JCR2024の2024IFは1.9であり，前年同様のIFであった．2020-2021年IFが良かったのは，IF計算へのデジタルコンテンツ重視方針の導入による過度期であったと考えられる．
- 引用数の推移について，2021-2023は減少傾向であったが，2024は回復傾向である．2019-2021年に発行された論文の引用数が牽引している．他ジャーナルに比べCEJの自己引用は少ない．引用されている論文は，通常号よりもSpecial Issue論文の割合が高く，Open Accessも引用率を高める上で有効である．
- Vol.67，Issue2は，12編の論文で構成．Issue3は10編で構成されている
- Special Issue（能登半島地震）は，7編採択済みで，6編査読中である
- 論文投稿数は，2025も200編程度を見込んでいる．
- CEJ Awardは，授賞に向けて準備を進めている．
- IFと分野別%の低下の理由は？

　→　詳細な分析はしていないが，他ジャーナルの引用率が伸びる中，CEJの引用率が横ばいとなり，相対的に引用率が低下したと解釈している

- ロイヤルティーをOA費に当てるのはどうか

**■広報・出版小委員会の状況について報告された（鴫原委員）**

- 第72回講演会の準備状況として，企業からの申込として，業界案内21，プログラム広告4，企業展示3であった．昨年と同様の申込状況である．プログラム上のレイアウトが例示された．

**■海岸・海洋デジタルツイン研究小委員会（越村委員）**

- 公益財団法人セコム科学技術振興財団　令和7年度 一般研究助成に申請し採択された．
- 2026年AOGSの企画セッションとして申請予定である．

**■研究小委員会，研究会，WGの活動について（事前回覧形式で報告）**

- 波動と地盤の複合場における地盤材料の取扱方法に関する研究会
- 沿岸域における気候変動適応策に関する研究会
- 波動モデル研究会
- 地域研究活性化WG
- 沿岸域研究連携推進研究会

＜＜その他＞＞

**■省庁連携特命WG について（田島委員）**

- 2025/10/24に第3回懇談会を開催予定である．

・　海岸関連人材強化プロジェクト，シードクター・プラス1の運用ルール

**■サーバーセキュリティ対策特命WG（川崎委員）**

・　coastal.jpについては，さくらのレンタルサーバーに移行済である．
・　メーリングリストの管理・運用手続きを作成した．
・　Web・メールサーバー（旧）は解約済であり，年間 5万円削減の見込．
・　海岸工学委員会HPのアップデート対応は，大きな懸念点である．HP対応，具体的にはWordPressのアップデート（Perl，PHPの更新）を業者に委託したい．
・　論文投稿・査読システムサーバー（旧）の扱い方についても，次回11月の委員会で，継続/解約の議決を得たい．
●　初期費用，CEJの印税も踏まえると，今年度中に対応するのが理想的

**■海岸工学２０４０特命WG（川崎委員）**

・　目的，4つのWGで構成される点，これまでの活動内容，今後の予定（前日シンポジウム@高松）について説明された．また，科研費学術変革Aへの申請を予定している．

**■第４回 日中土木学会ジョイントシンポジウム＋APAC(原田委員)**

・　2025/11/11に開催を予定している．水工主導で海岸工学は協力側の方針である，240編程度である．
・　APAC_membersとして，Busan以降のCouncilおよびISCの構成案が掲示された．空位のISC一枠は検討中.

**■ICCE2028について（田島委員）**

・　2028/5/7-5/12の開催を予定している．会場は，大阪国際会議場，リーガロイヤル大阪を予定している．会議運営会社がJTBに決定した．

**■11月選挙について議題(原田委員)**

・　委員長候補者の選出を11月に実施し，体制移行の円滑化と議論の充実を図る目的である．
・　11月は区切りの良さ，6月の業務集中回避等がメリットである．
●　上記のスタイルであれば，大きな変更は必要なく，内規の修正程度で対応できるのではないか.
●　委員長候補とは，複数の候補を選出するのか，それとも1人の候補者を選出するのか？
　→　一人の候補者を選出する．
●　委員長の選任は，新委員でなければならない根拠はあるのか？
　→　委嘱は6月からなので，11月時点では正式に選任できない.
●　委員長候補ではなく，次期委員長という表現が適切ではないか？

●　AOGSでは，委員長に相当するポストが選ばれて，副委員長を1年経験

後，翌年委員長を経験するシステムである．

- ①表現を次期委員長，または委員長候補のどちらかに決める，②何を持って承認，具体的な基準を記載すべきか？
  → ①は継続審議
- 確認ですが，これまでと同様に11月時点で，委員長と副委員長を両方指名するのか？
  → 11月時点では，新委員長*のみ選出する．
  * 表現は定まっていない．委員長候補者，次期委員長など今後の検討課題
  11月選挙について今後も継続審議

**■講演会イベントについて(原田委員)**

- 若手研究者・技術者と学生が集い，交流する企画である．スケジュールとして，海講の初日と2日目の12時～13時ごろを予定している．会場は，第62-63会議室が候補である．
- 趣旨として，次世代を担う学生に対して研究職の魅力や進路選択の可能性を伝える場とする．
- 対象として，学部生・大学院生を想定しており，最大30名程度の参加者を見込んでいる．
- 登壇者として，産業界（企業），官公庁，学術・研究機関から各1名ずつを想定している．
- 昼食用のお弁当を配布する．具体的なコンテンツとして，案①「初日はプレゼン中心，2日目はMeet Up」，案②「両日，プレゼン中心」を検討している．
- 申し込み方法は事前申込制（先着順），参加費は無料である．
- 今後の検討事項として，話題提供者の選定．パネラーへの交通費支給は可能である，土木学会事務に確認済である．
- 担当は，福井先生@名工大（若手の会）である．

- 様々な学会で同様の取り組みが行われている．ぜひ先生方の協力をお願いしたい．個人的には，Meet upが重要ではないかと考えている．採用する側の視点を踏まえると，参加者は若手研究者に限定せず，オブザーバーとして先生方にも参加いただきたい．
- 企業・研究所側のニーズはあると思う．
- 研究職としてこういったものがあると紹介されるだけでも，キャリアパスを考えるキッカケになるのではないか．
- 試行的に，今年度実施するということが承認された．

以上